

伝統に生きる

—あらかわの工芸技術—



わ さい し たて
和 裁 仕 立

た なか しょう きち
田 中 正 吉

(平成4年度作品)
16mm映画・ビデオ
カラー・16分

プロフィール

住所、西尾久5-4-9。

大正2年(1913)、東京都生まれ。

平成3年度、荒川区指定無形文化財保持者に認定される。

15歳のときから、父安三氏に師事して和裁仕立の技術を修得した。昭和13年に独立し、父と同様、デパートの専属和裁仕立職人となり、今日に至っている。

現在地には、昭和30年に移り住んでいる。

今までに、地方出身者の娘さんを、内弟子として和裁の技術を教えたこともある。最低、4年間は、従事することを条件としているという。

和裁仕立は、長時間、坐ったままの仕事であるため、「女性もくけ台を使わず、あぐらをかいて足の親指、人差し指とで布を押さえて仕事ができるようになれば一人前です」と語る田中さん。

鯨尺(寸、尺)と物指(cm、mm)を自在に使いこなし、和裁の技術を伝えていこうとする熱意がうかがえる。

企画 東京都荒川区教育委員会・製作 毎日映画社

用具・工具

アイロン・コテ・ハサミ、物指、へら、糸、針。

工程——江戸更紗の訪問着の場合——

- ① 表地と裏地をアイロンで、地のしする。
- ② 着物の部分の寸法を測り、ハサミで生地を長方形に裁断する（型紙は作らない）。
- ③ 上前の^{うわまえ}衿の柄を合せ、へらで縫い印をつける。
- ④ 寸法に合わせて上前脇の柄、下前脇の柄を合わせる。
- ⑤ 袖を縫い、袖先に丸味をつけ、コテを当てる。
- ⑥ 左右の袖の飾りしつけをする。
- ⑦ 背縫いをしてから身幅のへら付けをし、くりこし上げを縫い、衿付けして縫っていく（くけ台は使わず、あぐらをかいて縫い仕事をする）。
- ⑧ つま^{つま}を縫い、衿から裾^{すそ}合わせをする。
- ⑨ 身八ッ口の裏表4カ所を合わせ、留める。
- ⑩ 袖を付ける。
- ⑪ 裾に真綿^{まわた}を入れ絹糸でおさえる。
- ⑫ 横とじをし、次に背の中とじをする。
- ⑬ 脇とじをし、襟先^{えり}を留めて更にとじる。
- ⑭ まち針を打ってから衿をとじ、襟をくける。
- ⑮ つま先に真綿を入れ、くける。
- ⑯ 最後に飾りびつけをして、出来上がる。



江戸更紗の訪問着

利用される方は ☎ **3891-4349**

この記録〈16ミリ映画〉、〈ビデオテープ〉は、荒川区立荒川図書館で貸し出しています。貸し出し期間は、1回5日間です。お気軽にご利用ください。

※16ミリ映画は、団体登録と16ミリ映写機講習修了者が操作することが必要です。